

# 桐 kiri

目白の森から風便り

目白学園 広報誌  
学校法人 目白学園  
目白大学大学院  
目白大学  
目白大学短期大学部  
目白学園中学校・高等学校

第14号  
通算112号  
2008.12



Special issue-1  
**密度の濃い学習内容や就職指導で  
社会が求める実践力を身に付ける**  
「人生を変える」経営学科のゼミナール

Special issue-2  
**学生満足度のさらなる向上を目指して  
キャンパスライフの支援態勢を一新**  
大学事務局組織を大幅改編

輝く目白の星  
**マナー向上を、  
大学全体の取り組みとして広げたい**

MEPC (Mejiro Eco Project Crew)

## 「人生を変える」経営学科のゼミナール

# 密度の濃い学習内容や就職指導で社会が求める実践力を身に付ける

「ゼミは、学生生活の中で最も思い出に残り、学生の人生を変えるものの一つである」——(経営学科長・菊池宏之教授)  
少人数教育を重視する目白大学において、教員と学生とが密接なコミュニケーションをとりながら学ぶゼミナールは、教育活動の骨格を成す最も大切な存在です。中でも経営学科は、少人数によるきめ細かなゼミ教育を最も重視し、各教員がそれぞれにオリジナリティ溢れるゼミ運営を行っています。今回は、気鋭の若手教員として熱心な指導ぶりに定評がある山田恵一准教授のゼミを通じて、経営学部経営学科のゼミ学習についてご紹介します。

### ゼミ選択が

#### 「人生を変える」第一歩

経営学科では2年次の秋学期の最初にゼミ説明会を開き、学生は希望するゼミの担当教員の面接を受けて所属ゼミを決定します。本来のゼミ履修は3年次からですが、所属ゼミが決まった2年生が自主的に集まってサブゼミが開かれることも。学生にとっては、どのゼミを選ぶかが「人生を変える」大学生活後半の重要な第一歩です。

山田ゼミでは毎年、2年生が日商(日本商工会議所)簿記検定の2・3級合格を目指して、10月から早々にサブゼミを組みます。大学対抗簿記大会にも2年次から出場、今年は山田ゼミチームが3級団体戦で全国5位に入賞しました。

「3年生から正式に始まるゼミでは、1級レベルの内容を扱います。だから、2年生

に2級を取得しています」(山田先生)

本学の経営学科では、1年次の必修授業で3級レベルの学習は完了しています。山田ゼミではその成果を「簿記検定の合格」という形に現れた成功体験と結び付けることで、さらに上の級を目指そうという向上心を喚起し、それが日々の学習にも活かされるように、という狙いもあるようです。

#### 専門知識を学ぶだけでなく 基本的なビジネスマナーも重視

山田研究室で行われるゼミの授業で、先生はことあるごとにゼミ生を指して質問を飛ばします。少人数の仲間内で重ねられる質疑応答は、まるで90分間途切れることのない会話のよう。自分が指されていないときも、ゼミ生はすぐに机上の電卓を叩いて、自分の答えを素早く出していきます。

こうした密度の濃いゼミ学習を1年間続けることで、卒業論文のテーマを自ら的確に設定して書くための基礎力と、経理職に就いてもすぐに役立つ実践力が同時に身に付くといいます。

この「就職後に役立つ社会人としての実践力の習得」は、山田ゼミの大きな特長の一つ。ゼミ生は3年次の早い時期から、履歴書の書き方や筆記試験対策など具体的な就職指導を受けると

ともに、時間厳守や迅速な連絡の徹底など、社会人に必要なビジネスマナーを常日頃から意識するよう求められます。ゼミは専門知識を増やすだけではなく、社会人になる前の貴重な実践訓練の場と位置付けられているのです。

「就職して経済的基盤を持つことはとても大切。山田ゼミは学習内容の性格上、経理職の志望者が多いのですが、「経理職に就いて1年目に必要な知識や社会人のマナー」は全部教えます」



年度末に4年生全員が経験する「卒業論文公開審査」。  
張り詰めた空気の中で行われる本格的なプレゼンテーションです

#### 人前で話す能力を鍛える 卒業論文公開審査のプレゼン体験

目白大学の経営学科には、全ての4年生が卒論を一般公開の場で発表する「卒業論文公開審査」という機会があります。卒論を単に書いて指導教員に提出するだけではなく、不特定多数の聴衆の前でパ



大学対抗の簿記大会では  
山田ゼミが団体戦で連続入賞  
(賞状、写真は昨年のもの)



ます。山田ゼミではまず、「とにかく自分で考えて、書いて、それを添削して返し、書き直してまた提出」という作業を、ゼミ生ごとに半年ほど反復します。ある程度形になってきたら、みんなの前で1人ずつ自分の論文内容を説明し、互いに批評し合います。

ただし、これはあくまでも一例。指導方法は先生によって千差万別です。

人前で臨機応変に話す技術は社会人に欠かせないものですが、場数を踏まなければ上達しません。経営学科では、卒論制作というゼミ学習の集大成の機会を通じて「自分の考えを他人に分かりやすく伝える力を全ての卒業生に持ってもらう」ことを目指して、このような大学院並みの公開審査を実施しているのです。



ゼミ生のテキストは書込みでいっぱいに

#### 「『このゼミは大変だ』と知りつつ 入って来るゼミ生に実力を付けたい」

普段の授業でも出欠状況や受講態度を厳しくチェックする経営学科では、ゼミ生は、勉強内容だけでなく日常の生活習慣までゼミの影響を受けることが少なくありません。「学生の人生を変える」ゼミにかける教員

の情熱を、山田先生はこう解説してくれました。

「学生には『山田ゼミは大変だよ』とはつき言っています。勉強は難しいし、宿題は多いし、サブゼミに出なければならない、授業はいつも緊張感一杯……。それを承知で研究室にやって来る学生には、社会で通用する真の実力を付けてあげたい。それはどのゼミの先生も同じはずです。経営学科のゼミは、教員が勉強も就職も一生懸命面倒を見るから、『学生の人生を変える』ほどの力を持っているのだと思います」

### 教員紹介



山田 恵一  
准教授

平成13年、東京理科大学大学院工学研究科経営工学専攻博士後期課程修了。工学博士。平成16年より経営学科専任講師、平成20年より准教授。専門は財務会計学だが、経営学科ではその他にも管理会計学や原価計算、各種税法など、企業の会計実務に必要な内容を幅広く指導している。

### 在学生の声



樋渡 辰也さん  
経営学科4年(山田ゼミ)

入学当初は簿記が苦手だったのですが、山田先生の授業がとても分かりやすく理解が速くなったことが、山田ゼミを志望した理由でした。2年生のときから上級生と一緒にサブゼミで勉強した甲斐あって、簿記検定は3年生になる前に2級まで合格できました。

ゼミの授業では、「どうしてそういう処理をするのか、よく考えながらやらないなさい」ということをいつも言われます。それに、宿題がとても多い!だから、日々コツコツと勉強する習慣は自然に身に付きましたね。山田ゼミは「大変だけど、勉強が解る面白さを実感できる」ところが大きな魅力だと思います。

就職も先生に丁寧に指導していただいたおかげで早々に決まり、今は卒論の準備を進めています。2年前に初めて公開審査で先輩のプレゼンテーションを見たときは「これを自分もやるのか?」と驚いたのですが、先生との質疑応答をきちんとこなす先輩の姿を見て、「自分もあなりたい」とも思いました。今度は自分が後輩たちにそう感じてもらえるよう、頑張ります。

### 卒業生の声



門脇 裕子さん  
経営学科 平成18年3月卒業

経営学科の第1期生として山田ゼミで学び、卒業後は会計事務所に就職。財務コンサルタントとして、中小企業から一部上場企業までさまざまな会社の仕組み作りに携わってきました。

卒論のテーマは「セール・アンド・リースバック取引の測定に関する研究」。会計学の中でも細かい内容なんですが、実務の上で、「この分野をきちんと勉強していくよかったです」と思ったことが何度もあります。

山田先生はいつも、「自分で考えること」と「口頭で人に分かりやすく伝えること」の大切さを強調していました。先生の指導を受けながら臨んだ卒論の公開審査はその集大成でもあったのですが、あのようない場を社会に出る前に経験できたことは本当に有益でした。

毎回出される宿題に解らないところがあるときは、次の授業日より前に予め伝えないと怒られました。確かに、お客様との仕事の席についてから「実は分かりません」では通用しません。「社会に出たらこうだよ」ということを、学習面でも生活面でも常に意識しながら指導してくださったゼミだと思います。

## 大学事務局組織を大幅改編

# 学生満足度のさらなる向上を目指して キャンパスライフの支援態勢を一新

今年9月19日、新宿・岩槻両キャンパスでは、学生支援サービスの質をよりいっそう高めるために、事務組織の大幅な改編を行いました。学生生活を支える事務局のレイアウトも一新され、ソフト・ハード両面で装いを新たにした万全の態勢で、学生満足度のさらなる向上を目指します。

### 増加する事務量と キャンパスの特性に対応

『週刊エコノミスト』が今年9月23日号で組んだ特集「勝ち残る大学 消える大学」において、目白大学は、ここ10年間での志願者増加率が全国ナンバーワンの大学にランクインされました。志願者だけでなく実際の学生数も、本学はこの数年間で著しく増加し続けてきました。それに伴い、大学の事務量も飛躍的に増えています。

また、総合・文系の新宿キャンパスと保健医療領域に特化している岩槻キャンパスとでは、それぞれの教育・研究の特性が大きく異なります。このように、本学ならではの事情も考慮しながら、増加する事務量に迅速・円滑に対応するために、今回の大幅な事務組織改編を実施しました。

具体的な再編の概要は右ページに掲げた新旧対照表の通りです。その基本的なコンセプトは、学生の目線に合わせた学生支援サービスの質をいっそう高め、「育てて送り出す」大学としての学生満足度

向上を図る点にあります。また、組織の再編を機に、教職員が一体となって学生を見守る「For the Students」「With the Students」の意識を大学全体でさらに高めることも目的としています。

### 学生の目線に合わせた 部署の編成を実現

例えば新宿キャンパスでは、これまで授業の履修やカリキュラムに関する業務は教務課が担当していました。それが、学生の履修相談などは学生サービスグループに、カリキュラムそのものの策定などは教務・研究支援グループに担当が分割。これにより、学生生活に関する相談は、履修に関する業務も含めて学生サービスグループで一括して受けられるようになりました。

逆に、学納金に関する業務は従来、奨学金については学生課、延納については学務課というように、その内容に応じて担当部署が分かれていますが、これを学生サービスグループに統合しました。これにより、学生が学納金について尋ねる場合、学生課や学務課という別々のフロアにある担当部署を渡り歩くということもなくなりました。「ホテルのコンシェルジュデスクのように、「そこに行けば何とかなる」と学生に思ってもらえる部署を目指しています」(学生支援部・松村敦子部長)。

新体制は、秋学期の開始と同時に始まりました。夏期休業中には新宿・岩槻両キャンパスで事務局の改装工事を実施。新

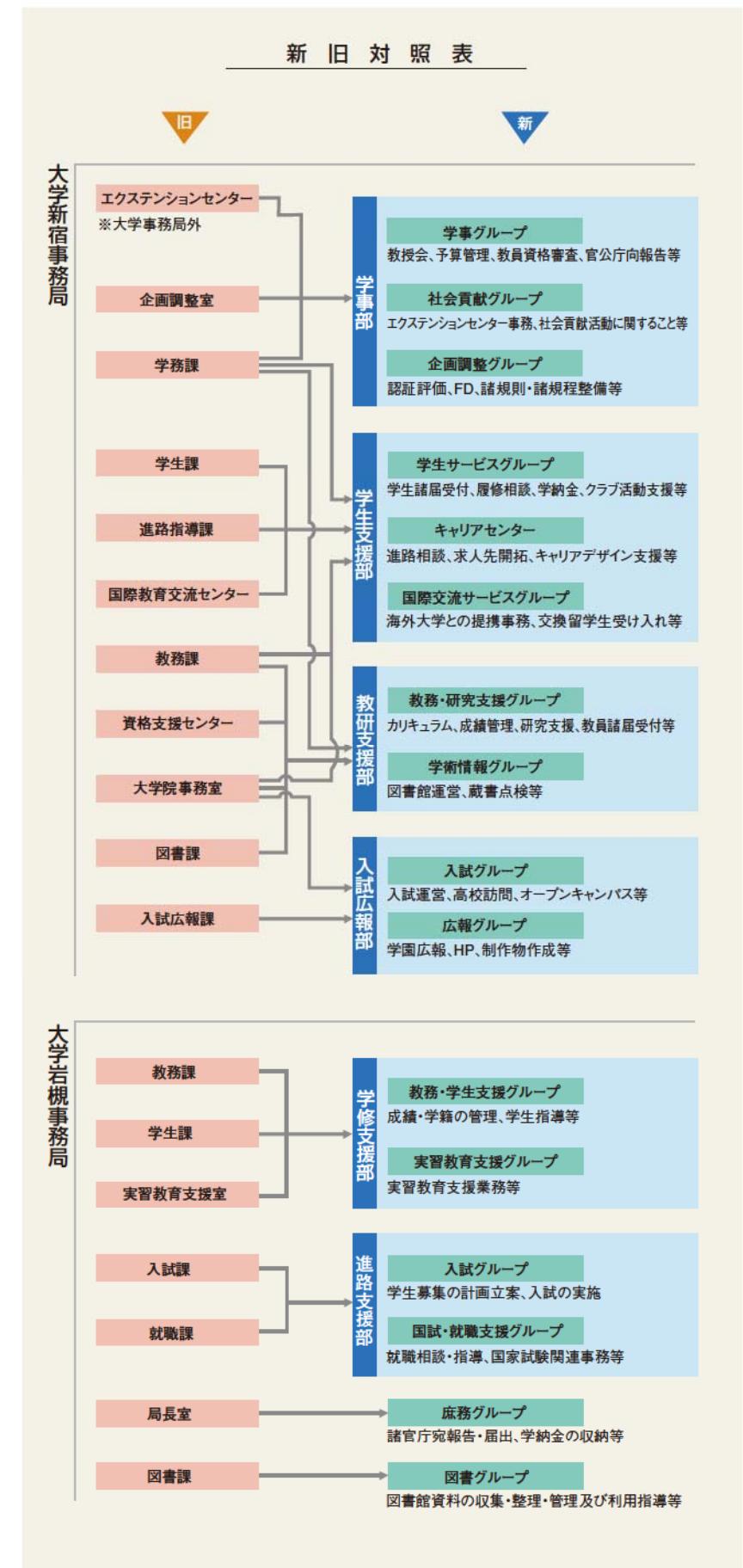


宿キャンパスの学生支援部では、これまでより高さの低いローカウンターで、学生は座りながら落ち着いて話ができるようになりました。それが学生に対しても、親しみやすい対応となって伝わっているようです。



### 事務局内の情報共有が進行 教育・研究活動にも好影響を期待

改編から約2ヶ月が経過し、事務局の運営面でも良い効果が生まれています。新宿キャンパスでは、学生サービスグループが表に出て学生を支え、教務関係についてはそのバックで教務・研究支援グループが支えるといったチームワークが定着。





## 目大生就職戦線最新事情

企業の採用活動は年々早まっており、近年は3年生の10月から始まります。一方、国家試験を目指す医療系や福祉系の学科では、卒業年次の学生が、試験に向けて最後の追い込みをかけています。さまざまな特性の学科を併せ持つ目白大学ならではの最新の進路指導情報を、新宿・岩槻各キャンパスごとにお伝えします。

### 【新宿キャンパス】

事務局の再編に伴い、新宿事務局の進路指導課は「キャリアセンター」に名称を変更し、学生の進路支援に当たっています。学生支援部の中に位置付けられたことで、学生にとって早い学年から就職活動やキャリアセンターの存在を身近に感じられ、センターのスタッフも学生と1年次から接しやすくなり、就職活動をスムーズに始めやすくなるなどのメリットがあります。

来春卒業予定の4年生・短大2年生の就職活動は、学科によってばらつきがあるものの概ね順調に推移しています。また、人間福祉学科では1月末には社会福祉士や精神保健福祉士の国家試験(国試)が控えており、国試を目指す4年生にとっては今が正念場です。昨年初めて卒業生を輩出した同学科の昨年度の就職率は、本学で最も高い98.8%! 今年も学科による国試受験のサポートと二人三脚で、希望業界への就職を後押ししています。

また、大学3年生、短大1年生の就職活動がすでに始まっています。大学生向けには10月から、短大生向けには11月から就職ガイダンスを頻繁に開催しています。筆記試験や一般常識対策講座、業種別の企業説明会を相次いで実施しており、今後も1月末まで断続的に行う予定です。

新宿キャンパスでは今年10月、「学生キャリアアドバイザー」が誕生しました。これは、就職先が内定した在学生が、就職を希望する後輩たちのために就職活動に関する個別相談を受けるという制度です。面接の具体的な様子など最新の就活事情が身近な先輩から聞けるとあって、学生にも好評です。

世界的な金融不安や大幅な株価の下落等によって、来年の就職はかなり厳しくなることが予想されます。キャリアセンターでは各業界の動向を適切に把握しながら、丁寧な就活アドバイスで内定獲得をサポートしますので、大学3年生、短大1年生の皆さんには、ぜひ早めにキャリアセンターに足を運んでもらいたいと思っています。

(キャリアセンターマネジャー・佐藤貴生)



キャリアセンター

### 【岩槻キャンパス】

人文学部から医療系学部への転換を終えつつある岩槻キャンパスでは、就職課は進路支援部の中の「国試・就職支援グループ」へと再編され、従来の人文学部の学生支援とあわせて保健医療・看護の両学部生の国家試験の受験と就職活動を一体となってサポートする体制に生まれ変わりました。

4年生が来春チャレンジする国試受験については、学科の教員が国試対策委員会を設置して、すでに3年次から全国規模の模試や過去問学習などを繰り返しています。国試・就職支援グループは、そのバックオフィスとしての機能を果たすことになります。

初めての卒業生を送り出す理学療法学科と作業療法学科では、10月に国試受験に向けたオリエンテーションを実施。12月には国試願書作成のためのガイダンスを予定しています。就職試験を受ける際に必要となる履歴書の添削指導や相談を個別に受け付けており、現在、大勢の学生が国試・就職支援グループを毎日訪れています。

これに先立ち、9月から各病院・施設の案内・求人票ファイルが並ぶ「就職資料室」を開設しました。学生が自由に入り出しき、夜9時まで資料の閲覧が可能となっています。この他、本学への企業・病院・施設からの求人情報は、「学生ネットサービス」で自由に閲覧することができます。11月初旬の時点で、医療系関連の求人だけで600件以上、大学全体では3,000件以上に上っています。

なお、最後の卒業生となる人文学部の4年生に関しては、すでに昨年度中に年13回の就職支援プログラム(個別履歴書添削3回を含む)を終え、ほとんどの学生が内定を貰っています。

(国試・就職支援グループマネジャー代理・西村一二)



新設された就職資料室



## 学園インフォメーション

### 中学校・高校

2008.9.13~14 桐陽祭

自白学園中学校・高等学校の文化祭「桐陽祭」が行われた。今年のテーマは「夢に向かってJUMP!」。来春の共学化を前に、女子校として最後の文化祭を多彩な展示や迫力ある演舞で盛り上げていた。



2008.9.24 総合学習発表会

4月以来、「環境と生命」をメインテーマに総合学習を行ってきた中学1年生が、環境問題・資源の活用・自然保護・食糧問題と4つのテーマに分かれ、グループごとの発表を行った。この成果が、今後の校外学習や研究論文にも繋がっていくことが期待される。

2008.10.5

ちびっこチアリーディング  
体験教室開催

自白学園中学校・高等学校メインアリーナにおいて「ちびっこチアリーディング体験教室」が開催された。小学校1~6年生の女の子が集まり、チアリーディング部のコーチや生徒と共にダンスやスタンツに挑戦。チアリーダーに最も必要とされるスキル「元気・勇気・笑顔」を合言葉に、会場内の雰囲気は終始明るく、活気に体験教室が行われた。フィナーレにはPOLARIS部員たちとのコラボレーションによる演技を行い、チアリーディングの醍醐味を満喫した。

2008.10.20~24 修学旅行

4泊5日の日程で、高2年生が九州へ修学旅行に出かけた。鹿児島からスタートし、熊本の阿蘇山や熊本城、福岡の柳川、佐賀の吉野ヶ里遺跡をめぐり、最後は長崎へと進む全日程で好天に恵まれた。鹿児島の知覧特攻記念館や長崎の原爆資料館では、数々の資料閲覧とともに被爆者の方の講話を聴講するなど、戦争の悲惨さと平和の大切さを改めて認識できた。



### 大学・短大・学院

2008.7.18 本学学長が日本私立短期大学協会会長に就任

本年5月、佐藤弘毅学長が日本私立短期大学協会会長に就任した。同協会は、私立短期大学の教育研究条件の充実向上と経営の安定強化を目的に設立された団体で、全私立短期大学の99%、日本全国の373校が加盟している。この日は本学教職員の有志による就任祝賀会が開催され、本学短期大学部に縁の深い先生方からのお祝いの言葉や思い出話などが披露された。

2008.8.9~10 オープンキャンパス

猛暑の中、オープンキャンパスが新宿・岩槻両キャンパスで実施された。2日連続の開催は新宿キャンパスでは初めてのこと。AO



入試受験に必要な事前相談は、新宿キャンパスではA日程の、岩槻キャンパスでは全日程のラストチャンスであったため、事前相談を目指す受験生が多かった。また、新宿キャンパスではアロー教育総合研究所長の西山淳氏による「保護者のための実践的入試対策講座」が開かれ、熱心にメモを取る保護者の方の姿が多く見られた。

2008.10.25~26 第40回桐和祭

新宿キャンパスの学園祭、「桐和祭」が開催された。2日間ともう曇りの天候だったが、両日併せて約1万8千人がキャンパスを訪れ、会場は終始熱気で包まれていた。2日目の午後には恒例となった御靈神社の神輿も登場し、お祭りムードの盛上げに一役買っていた。

2008.11.1~2 第15回桐榮祭

岩槻キャンパスにおいて桐榮祭が行われた。今年は15回目の節目となり、また人文と保健医療・看護の各学部生が融合する最後の学園祭となった。両日とも爽やかな秋晴れとなり、たくさんの来場者が集まる盛況ぶりだった。閉会式後に行われた恒例の花火大会でも大勢の観客を魅了していた。

# mejiro

最優秀作品に選ばれた  
柴崎君の作品。人が向か  
い合っているように見える「上」と「下」  
の文字がポイント

## キャンパスグッズのロゴマークが決定!

「あなたのデザインがキャンバスグッズになります!」という呼びかけで、自白大学や自白学園中学・高校で学ぶ学生・生徒の皆さんから公募をしていました。オリジナルロゴマークの入賞者が決定し、7月29日、新宿キャンパスにおいて和やかな雰囲気の中、表彰式が執り行われました。

応募総数は210点。どれも愛校心に溢れ、個性に富んだ力作ばかりでした。一次選考、二次選考を経て見事最優秀作品に輝いたのは、人間学部心理カウンセリング学科4年、柴崎雅人君の作品。本学園のあたたかさ、明るさ、そして常に進化し続ける新鮮さが、シンプルなブルーで表現されています。

今回惜しくも最優秀は逃しましたが、佳作として、社会学部メディア表現学科2年の金子隆一郎君、保健医療学部理学療法学部2年の秋山和幸君、そして自白学園高等学校1年の京德美葵さんの3作品が選ばれました。

10月には柴崎君のロゴを使用したキャンバスグッズが完成。桐和祭を皮切りに学内販売が始まり、好評を博しています。



キャンパス内の喫煙所付近で、大学周辺や落合・中井駅までの通学路で、時折通る人の目を引くのがオレンジ色のつなぎを着た学生グループ。背にはエコをイメージする双葉マークに「MEPC」の文字。手にはうきやちりとり、ゴミ袋を持ったこの一団が今号でご紹介する「目白エコプロジェクトクルー（通称メベック）」のメンバーたちです。

「メベック（MEPC:M=目白・マナー、E=エコ、P=プロジェクト、C=クルー）」は、本学学生・教職員のマナー向上を推進する目的で昨年設立されました。「きっかけは、『マナーについて』という議題で開催された昨年のキャンパスサミット（注1）です。喫煙や、近隣の方々からも改善のご指摘があった通学時のマナーについて意見交換が行われた結果、マナーキャンペーンの実施が決定。そこで、中心となって行う組織として学生5団体（注2）から有志を募り、MEPCを立ち上げたのです」と発足の経緯を説明してくれたのは、委員長の吉田典司さん。各団体2名ずつの参加でスタートしたMEPCは、現在はいろいろな団体に所属する1年生から4年生までの13名で構成されています。今回話を聞かせてくれた大岩さん、菅野さんは以前からエコやマナーについて関心が高かったものもあり、積極的に参加を希望したそうです。

### 活動の中心は マナー向上の呼びかけと環境整備

MEPCの主な活動は2つ。マナー向上推進（呼びかけ）と清掃を中心とする実践活動です。マナー向上推進の手始めは喫煙に対する取り組みからでした。

本学の喫煙スペースは混み合うことが多く、決められた場所以外で吸ってしまう学生がいたり、吸い殻の処理がきちんとされないこともあります。通学路でのたばこのポイ捨て禁止、学内でのゴミ分別の徹底も不十分なため、そうしたことへの注意喚起や定期

的な清掃（学内＝2週間おき週2回、学外＝月1回）が現在の活動の中心となっています。

さらに、新宿区の「世界禁煙デー」の呼びかけに応じて本学でもその日の喫煙を控えるよう呼びかけるポスターを掲示したり、「ゴミゼロの日」の行事に参加したりという取り組みを通じて、地域活動との連携を図っています。

### MEPCへの参加で 自分の気持ちが積極的に

大半の学生や近隣の方々は彼らの活動に理解を示し、感謝の言葉をかけてくれるそうですが、やはり最初のうちは注意のための声かけにはためらいがあったとか。「マナー」という言葉に対して持つニュアンスは人それぞれに異なるため、誤解も生まれやすいのが実情です。

「私たちはその場にふさわしい態度をマナーだと考えていますが、どこからがマナー違反かは線引きがとても難しい。だから、人の迷惑にならないという当たり前のことから始めています」と菅野さんは、自分が声かけする基準を説明してくれました。自分たちなりにマナーを定義し、考え方をしっかりと共有できるようになって自信が生まれ、積極的に行動できるようになったそうです。MEPC参加後の気持ちの変化を、3人は「注意できなくてがまんするのではなく、自分から積極的に働きかけて変えようという強い気持ちが生まれました」（吉田さん）、「何かしたくても実践の仕方が分からなかったのですが、参加は思いを行動に移すきっかけになりました」（大岩さん）、「文



句を言って終わってしまう自分に积淀としないでいましたが、メンバーになって、言うだけではなく行動するという気持ちになれました」（菅野さん）と語ります。

### 認知度、関心度を高めるのが 今後の課題

大変意義深い活動でありながら、この団体の認知がまだまだ学内全体に行き渡っていないところがメンバーの悩み。一般の学生に禁煙促進のポスター募集をしたり、清掃活動への参加を呼びかけたりするのに加え、クラブ向け定期会でのアピールや再びマナー問題を取り上げる今年のキャンパスサミットでの報告などを通してMEPCの存在意義を広く知ってもらいたい、活動パワーを強めたいと考えています。

「大学は勉学する場ですが、自分から動いて人生を作り出すことを学ぶ場もあると思います（吉田さん）。目白大学には『育てて送り出す』という精神が生きており、学生のやりたいことを応援してくれる仕組みがあります（大岩さん）。学生のチャレンジを支援してくれる大学に感謝しつつ、MEPCの取り組みやマナーについての考え方方がメンバーからその仲間に、そして大学全体に広がっていけばいいと思っています（3人）」

注1：大学全体に関する問題を話し合うことを目的に教職員と学生が1年1回集う討議集会。

注2：学生会本部執行委員会、桐和祭実行委員会、文化連合会、体育会、留学生会の總称。



#### MEPC STAFF

委員長	吉田 典司さん
	人間福祉学科3年
副委員長	大岩 久恵さん
	人間福祉学科3年
副委員長	青木 悠湖さん
	心理カウンセリング学科2年
長内 薫さん	社会情報学科2年
菅野 佑香さん	社会情報学科2年
三嶋 賢佑さん	社会情報学科1年
中野 梨沙さん	人間福祉学科1年
君島 浩輔さん	心理カウンセリング学科1年
櫻井 由貴さん	韓国語学科1年
伊達 文彦さん	メディア表現学科4年
田畠 舞子さん	人間福祉学科4年
藤田 菜穂子さん	心理カウンセリング学科4年
藤井 康子さん	心理カウンセリング学科4年

## 輝く目白の星

マナー向上を、  
大学全体の取り組みとして広げたい